

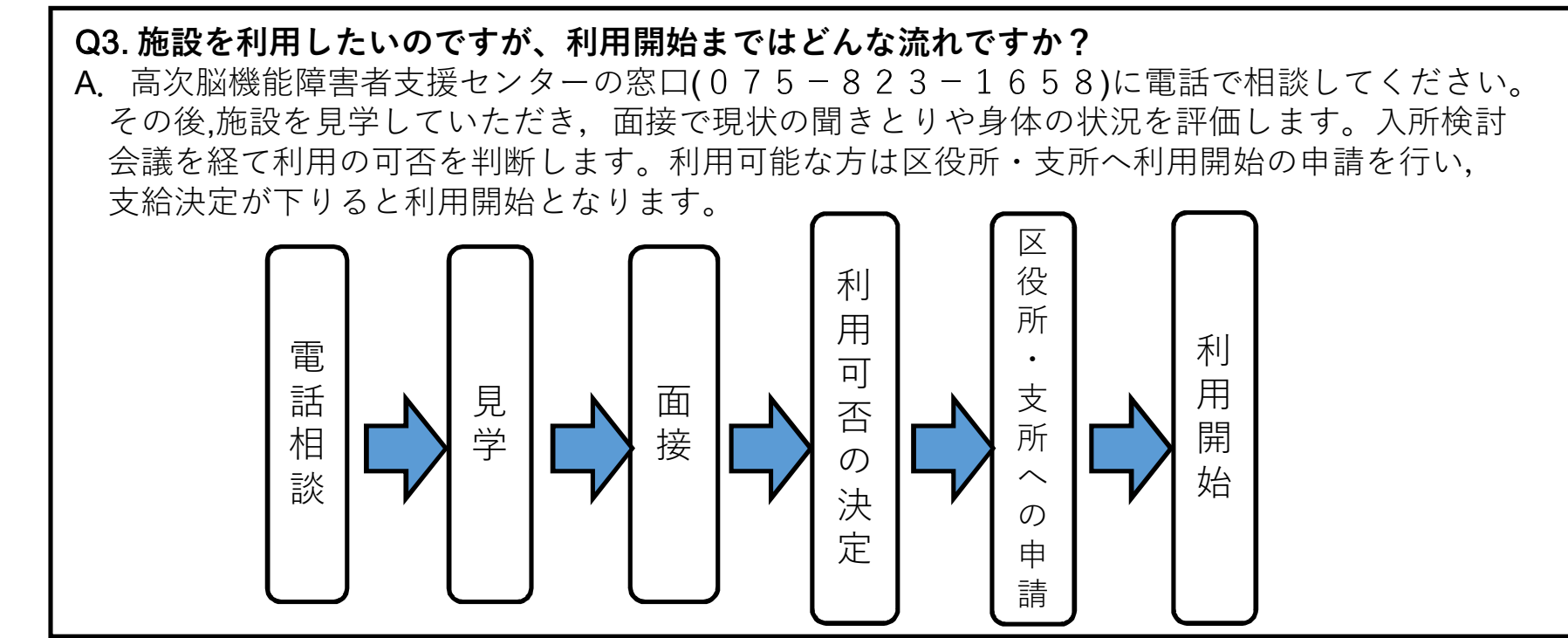


『障害者支援施設』って？ よくお問い合わせのある7つの疑問にお答えします



Q1. 施設を利用できるのは？
 A. 高次脳機能障害と診断された方です。障害者手帳の有無や発症からの経過日数は問いません。

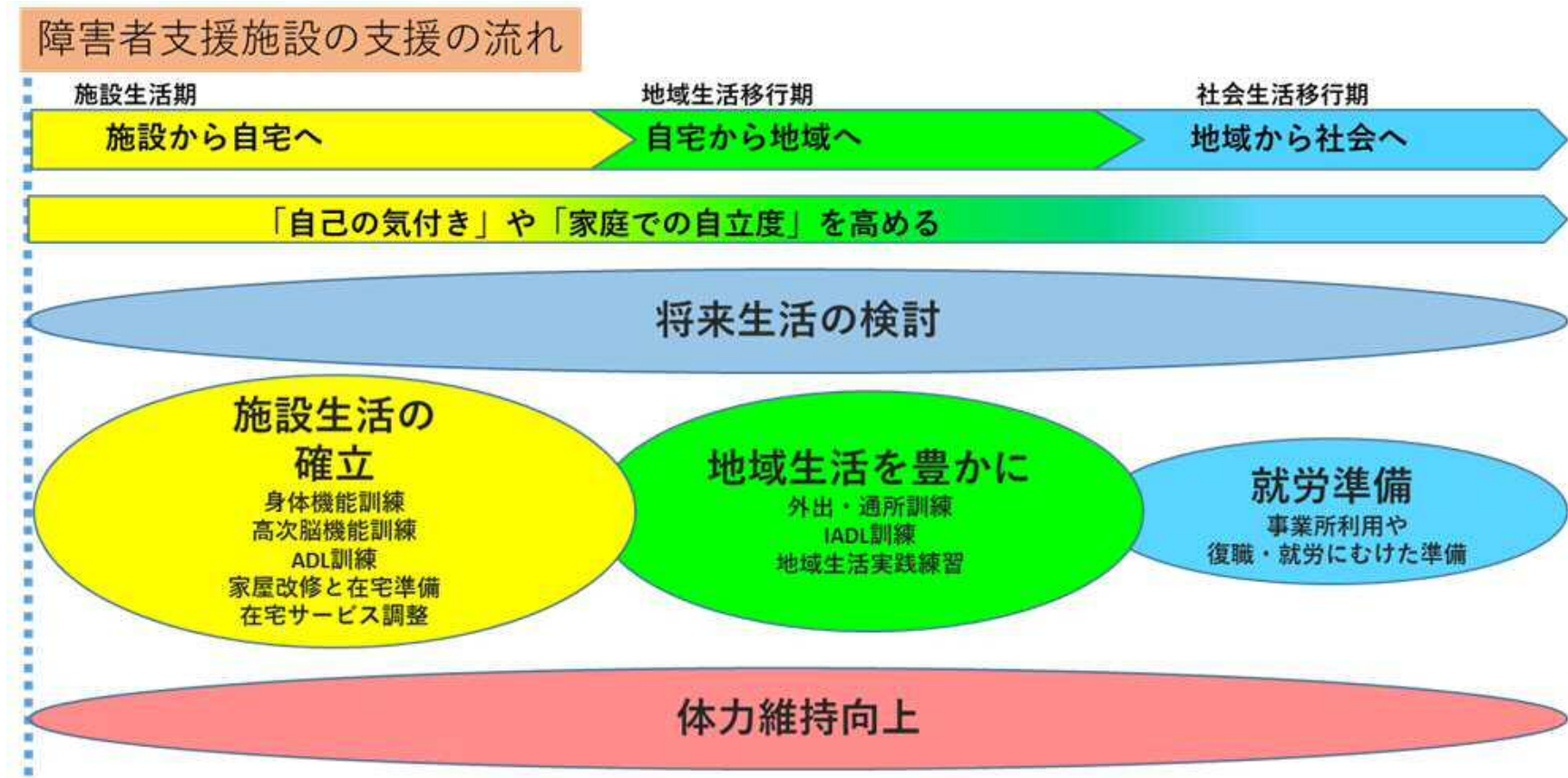
Q2. 提供しているサービスは？
 A. 自立訓練の機能訓練(定員25名)と生活訓練(定員15名)があります。また、これらの訓練を受けるにあたり入所したほうが訓練効果が期待できる方は、施設入所支援(定員30名)が利用できます。短期入所も実施しています。



Q4. 移乗に介助が必要なんですけど...？
 A. 腰持ち介助で殿部挙上が可能であったり、下衣の上げ下げなどが部分介助レベルであれば対応可能です。全介助が必要な方は十分な対応が困難なためご利用いただけません。詳しくは以下の表をご覧ください。

動作	利用可能な状況
移動動作	歩行(杖や歩行器、下肢装具の使用は問わない)もしくは車椅子駆動にて施設内移動自立レベル。
移乗動作	見守りや部分介助レベル。※手すりやベッド柵などの使用は可能。
トイレ動作	排便・排尿共にコントロールされている方。夜間の尿器使用は可能。 ※突発的な便失禁や尿失禁に対しては対応可能。 ※おむつの使用は、着け外し・後始末ができる方。
食事動作	箸、フォーク、スプーン、介助箸などを使用して自力摂取が可能な方。 ※食塊をスプーンに乗せたり、フォークに刺したり、支援者が直接口元に運ぶなどの介助には対応できません。
入浴動作	風呂場(脱衣場、浴室)内の移動は、シャワーキャリーで介助可能。 ※集団浴では、階段昇降ができない方はシャワー浴のみの対応になります。
更衣動作	見守りや部分介助レベルの方。 ※全介助の場合は対応できません。

Q5. どんな流れでプログラムは進みますか？
 A. 下記の流れに沿って目標を立て、それぞれの時期に応じたプログラムを実施していきます。



Q6. 今までどんな方が利用されましたか？
 A. 下記の利用ケース紹介をご覧ください。他に、「家の外に出る機会が減ってきて体力が衰えてきたので、もう少し動けるようになりたい。」といった希望で利用されていた方もいます。

利用ケース紹介

在宅生活の充実を目指したAさん 50代男性 くも膜下出血 右上下肢機能障害1級

日常生活動作の自立を目標に、通所で移乗動作と更衣動作の訓練を実施。職員間でも統一した関わりを行い、6ヵ月後には施設内車椅子自走、トイレ動作は見守りから自立となる

訪問リハや在宅介護の支援者に情報を提供し、自宅内や外出先でのトイレ動作も自立となり、地域生活における活動範囲が拡大

関連機関と連携し復職したBさん 40代男性 脳梗塞 両上下肢機能障害4級

注意障害や上下肢麻痺の影響による、処理速度や作業の正確性の低下と病識の乏しさに対し、認知リハや脳トレ、作業活動を実施。集団内でプログラムに参加する中で、徐々に気づきが得られるようになる

復職に向けての意欲を示されるようになったため、職業センターへ相談

職業センターで作業評価を受け、苦手と強みを客観的に本人へフィードバック。職場へは障害についての説明や必要な配慮について情報提供を行い、利用開始6ヶ月で復職

Q7. 短期入所を利用したいのですが、利用開始まではどんな流れですか？
 A. お電話で簡単な聞き取りをさせていただきます。075-823-1658までご連絡下さい。利用調査票を送付させていただき、返送していただいた後、電話面接を行います。